

まちのいじもと



第一号：二〇二〇、十一

いじもと絵本

発行・編集

まちの保育園 吉祥寺



「まちのこどもと」はじめました

まちの保育園 吉祥寺が地域の子育て世帯の皆様へ発信する小さな子育て情報誌「まちのこどもと」

毎回テーマを設けながら、まちの保育園が大切にしていることや、子どもたちの豊かな姿を園だよりを抜粋しながらお伝えしていきます。

まず第一号から複数号にわたり「こどもと絵本」をテーマに子どもたちの姿をお伝えいたします。

にんぎのえほん (2019年度・0歳児より)

子どもたちは一日に何度も絵本を大人の元まで持ってきて、「よんで」と差し出します。絵本を読み始めると自然と3〜4人集まってきて、前に座って最後まで絵本を見ているのです。集中して、絵と、声と、大人の表情を見えています。また、一人でページをめくりながら声を出して、なにやら読み聞かせをしているような子も。もくもくと棚から一冊ずつ出したり、本棚に並べている子がいたり、楽しみ方も様々です。ここでは今人気の2冊を紹介します。



「つんこんぱっ」

この本には絵に合った独特な擬音語のような言葉が書かれています。「つんこんぱっ」「もねもねもね」など、音を感じて楽しめる言葉です。子どもたちはシンプルで優しい絵柄や、面白い響きの言葉に惹かれているのでしょうか。読み終えると表に返して「もういっかい!」と小さな差し指をピンと立てておとなのひざで楽しんでいきます。

「んんんんん」

この本は絵柄を表現する言葉とその柄の虫たちが出てきます。虫に関する歌(かたつむり、ちよつちよ等をワンフレーズ歌ってみたり、最後の虫がでてくるページでは…出てきたときに「わあっ!」と大人が驚く表情を見せてみたりすると子どもたちも一緒に両手で口を押さえて「わあ〜!」と声を出し、驚くりアクションをするようになりました。お互いになんかような表情や反応をして、笑い合っていて楽しんでいます。大人の真似や大人とのやりとりをしていく中で、楽しみながら表情や言葉の意味が少しずつ繋がっていき、表現も豊かになり少しずつ喃語も増えてきました。

「読書の秋」(2018年度・0歳児より)

最近の人気の本は、「ぶーぶーじどうしゃ」「ぱんだいすき」「まるくておいしいよ」「ぼくはいぬ」などです。自分が知っている世界と絵本をつなげて、新たな体験が生まれています。食べる真似をしながらつまんで口に運んで「はくっ」「もぐもぐ」「おいしい」と本当に食べているようで、実際体験したことイメージがながっていることがよくわかる姿です。さらにその行為を友だちといっしょに楽しむ姿も見られます。

日常生活の中で繰り返される出来事と絵本の世界が交わることは、コミュニケーションの土台を作る一つになるのかもしれない。

